

第6学年2組 国語科学習指導案

1 単元名 作品の世界を深く味わおう ―やまなし―

2 本単元の価値

本単元では、年間を通した読書記録「マイ・ストーリーログ」の蓄積と、それを校内外の友達と紹介し合う「宮沢賢治ブックトーク」という目的を設定し追究を促す。

文学的文章「やまなし」(以下、教材文)は、宮沢賢治独特の色彩豊かな表現で、谷川の底から見た水中の世界が描かれている作品である。作品は、「五月」と「十二月」との対比構造で物語が展開している。「クラムボン」「イサド」など、宮沢賢治が想像して作った言葉に象徴されるように、読み解くことが難しい文学的文章の一つとして、古くから教科書に掲載されている作品でもある。構成及び表現といった両面から作品の世界を捉えることを通して、宮沢賢治の思いを想像し、この作品を読んで何を感じ、何を考えたかといった自分の考えを形成することを本単元のゴールにする。

本教材には次の二つの価値がある。一点目は、作品を読み解くために学級全員で議論できる点である。先述したとおり、教材文には難解な点が多く、多様な解釈が生まれる。そのため、教材文の表現を基にすることで、正解のない問いに対して学級全体で様々な議論を重ねることができる。このような議論ができる子供は、作品に対する互いの意見や感想を伝え合うことを通して作品を深く読むと同時に他者の捉え方に触れ、他者を理解することもできるようになる。二点目は、作者の生き方や考え方を基にして読める価値である。本単元で扱う副教材から、宮沢賢治がどのような生い立ちや職歴なのか、どのような思いや考えを込めて作品を書いたのかなどを理解することができる。作者の生き方や考え方を基に教材文を読み進められるようになった子供は、様々な文学的文章を読む際にもこれらを視点の一つとすることができる。そのため、作品をさらに深く読み味わえ、自分の考えをまとめることに役立つ。

なお、本単元では、一次で宮沢賢治の人物像や作品に込めた思いに迫るために、「イーハトーヴの夢」「雨ニモマケズ」「永訣の朝」「宮沢賢治の年表」を副教材として扱う。また、三次では、単元を通して並行読書をしてきた宮沢賢治作品の中から、自分の興味のある作品を選択し、「やまなし」と比較しながら読めるようにする。これらの作品を手掛かりにさせながら、宮沢賢治が作品に込めた思いを読み取らせたい。

このように、年間を通した読書記録「マイ・ストーリーログ」の蓄積と、それを校内外の友達に伝えていく「宮沢賢治ブックトーク」のために宮沢賢治が作品に込めた思いを追究することにより、国語科の資質・能力がよりよく育成されることに、本単元の価値がある。

3 本単元で育成する資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none">・日常的に読書に親しみ、読書を通して自分の考えを広げる知識・技能・思考に関わる語句の量を増やし、文章を理解するために使うことで語彙を豊かにする知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える力・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力・文章を読んで理解したことに基付いて、自分の考えをまとめる力	<ul style="list-style-type: none">・他者と考えを伝え合うことで自らの考えを調整し、よりよく課題解決しようとする態度

4 本実践で目指す姿

複数の教材を関連付けながら読み、宮沢賢治が作品に込めた思いを考える子供

授業参観後、QRコードを読み込んでいただき、ご意見・ご感想をお寄せください！

5 指導計画 全10時間

時	学習活動	子供の姿	☆評価する対象
1	○言語活動「宮沢賢治ブックトーク」の概要を知り、単元の流れを理解する。 ○教材文「やまなし」の読み聞かせを聞き、初発の感想を記述する。	◎初発の感想を交流し、学習の見通しをもとう。 ・校外の友達と考えを交流するのか、いい考えをもてるように頑張る学習しよう。 ・「クラムボン」や「イサド」って何だろう？ ・色に関する表現がたくさんあるな。 ・宮沢賢治が伝えたいことってどんなことなのかな？	☆ロイロノート ・学習内容に興味をもち、多数の初発の感想をテキストに記述している。
2 3	○副教材「イーハトーヴの夢」「雨ニモマケズ」「永訣の朝」「宮沢賢治の年表」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を理解する。 ※この学習後、「やまなし」以外の宮沢賢治作品を提示し、授業時間外で並行読書を行っていく。	◎宮沢賢治の生き方や考え方を読み取ろう。 ・「イーハトーヴの夢」から、「人々のことを考え、みんなのために力を尽くした」ことが分かった。 ・宮沢賢治が理想としていたのは「人間がみんな人間らしい生き方ができる社会」「人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界」だった。 ・「雨ニモマケズ」には、賢治の優しさや人のために力を尽くす人になろうという思いが書かれている。 ・「永訣の朝」には、妹に対しての別れの悲しみと、生まれ変わったときの幸せを願っている。	☆ロイロノート スタディ・ログ ・副教材から宮沢賢治の生き方や考え方を読み取り、自分の考えをスタディ・ログにまとめている。
4	○初発の感想を基にした課題について、課題別グループを編成して検討する。 【課題例】 ① クラムボンとイサドとは。 ② 色の表現の効果。 ③ オノマトペの効果。 ④ なぜ題名が「やまなし」？ ○グループで検討した課題を全体で共有する。	◎自分たちが考えた課題を解決しよう。 ・クラムボンとは泡のことではないか。色々な考えができそうだ。 ・「五月」では、魚の様子を「鉄色に変に底光りして」と表現しているのが不吉な感じを出している。 ・やまなしが「トブン」と川に落ちたのが面白いな。印象的なオノマトペにすることで、やまなしを強調したかったのかな。 ・「やまなし」は後半にしか出てこないのに、なぜ題名なのか？重要な役割をもっているはず。	☆ロイロノート スタディ・ログ 発話 ・自分が決めた課題についてグループで話し合い、自分の考えをスタディ・ログにまとめている。
5 6	○「五月」と「十二月」の場面で描かれている世界を対比して考え、内容を読み取る。	◎「五月」と「十二月」の場面には、それぞれ何が描かれているのだろうか。 ・「五月」の場面では、魚がかわせみに食べられてしまう場面が描かれていた。命が奪われてしまう恐怖や不安な様子が描かれている。 ・「十二月」の場面では、やまなしが落ちてきて川を流れていく様子が描かれている。やまなしがおいしいお酒になるのは、かにとって幸せなことだ。 ・「五月」はかわせみが命を奪うけど、「十二月」はやまなしが命をあげている感じがする。どちらも正反対な様子が描かれている。	☆ロイロノート スタディ・ログ 発話 ・「五月」と「十二月」の場面について、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。
7 本時	○宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えたかったことを考える。	◎宮沢賢治は、「やまなし」を通してどんなことを伝えたかったのだろうか。 ・ぼくは、賢治は「やまなし」で「人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うようになってほしい」ということを伝えたかったと思いました。それは、「十二月」の場面で、かにとやまなしの心の通い合いがあったからです。「雨ニモマケズ」に書かれている「穏やかに人のために尽くす姿」がやまなしの様子とつながって読めたので、そう考えました。	☆ロイロノート スタディ・ログ 発話 ・複数の教材を関連付けながら読み、宮沢賢治が作品に込めた思いを考えている。
8 9	○教材文以外の宮沢賢治作品を読み、宮沢賢治の思いについて考える。 ○スタディ・ログを整理する。	◎宮沢賢治は、作品にどんな思いを込めて書いたのか。 ・ぼくは、「ゼロ弾きのゴーシュ」を読んだ。主人公のゴーシュは、自分が弾くゼロの音楽で、野ねずみやうさぎ、たぬきなどの病気を治すことができることを知り、たくさんの動物を助けていった。これは、「イーハトーヴの夢」に書かれていた賢治の理想とする「人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界」が描かれているのだと思う。	☆ロイロノート スタディ・ログ ・教材文以外の作品を読み、宮沢賢治が作品に込めた思いを読み取っている。
10	○「宮沢賢治ブックトーク」を行う。 ○単元全体の学習を振り返る。	◎宮沢賢治作品を読み取って感じたことを伝え合おう。 ・ぼくは、宮沢賢治は「人々にやさしい心が通い合う」ことを願って作品を書いたと感じました。「やまなし」では、やまなしが川に落ちてきて、自分の命を与えておいしいお酒になります。「ゼロ弾きのゴーシュ」では、様々な動物の病気を治すために、たくさんの演奏をします。これは、人々のために力を尽くしてきた賢治の姿と似ていると思います。	☆ロイロノート スタディ・ログ ・単元全体の学習を振り返り、宮沢賢治が作品に込めた思いについての考えを深めている。

6 本時の構想

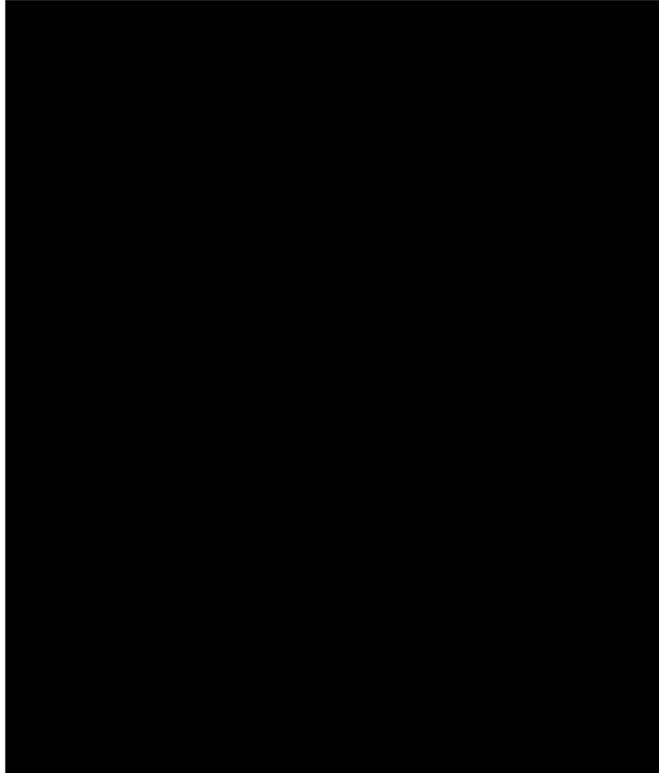
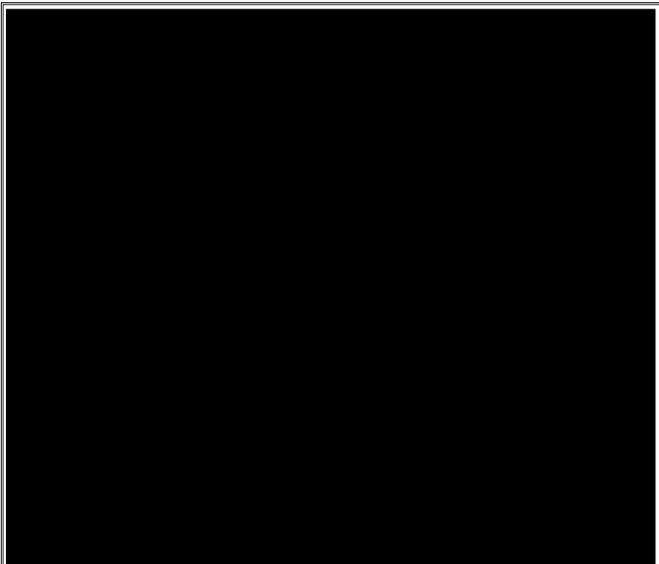
(1) 本時のねらい（本時 7/10 時間目）

教材文「やまなし」と複数の副教材を関連付けながら読み、宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いを考えることができる。

(2) 展開

年間を通して、読書記録「マイ・ストーリーログ」を蓄積し、自分が読んだ作品の魅力を紹介し合う活動を行ってきている。本単元では、宮沢賢治作品に関する「マイ・ストーリーログ」の作成と、それを基に校内外の友達と考えを交流する「宮沢賢治ブックトーク」を目的として学習を進めていく。子供は教材文を読み、初発の感想を交流した後で「イーハトーヴの夢（伝記資料）」「雨ニモマケズ（詩）」「永訣の朝（詩）」「宮沢賢治の年表」という四つの副教材を読み、宮沢賢治の生き方や考え方についての知識を得ている。そして、初発の感想を基に設定した課題について話し合ったり、「五月」と「十二月」の場面を対比して読んだりすることを通して、作品の設定や構造、内容について読み取っている (C0)。

教師の働き掛け	学習活動と子供の姿
<p>○ 宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えなかったことは何かを問い、複合拡大教材文を基にしてグループで話し合う場を設定する。 【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明「今日の課題は、やまなしの最後の大きな疑問である「宮沢賢治は、やまなしという作品を通して伝えなかったことは何か」について考えていくことでしたね」 <p>※補助発問「何を参考にすれば考えていくことができそうですか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問「宮沢賢治は「やまなし」を通して、何を伝えなかったのでしょうか」 ・指示「これから、拡大した教材文を配るので、これを基に考えてみましょう。同じ班の友達と一緒に考えてみましょう」 <p>※ 活動する場所を示し、同じ班の子供同士でグループを編成させて活動させる。</p> <p>※ 複合拡大教材文を配付し、好きなようにメモをしたり線を引いたりしてもよいことを伝える。</p>	<p>○ 宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えなかったことは何かとその理由とをグループで話し合いながら考える。</p> <div style="background-color: black; height: 30px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】 宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えなかったことは何だろうか。</p> </div> <div style="background-color: black; height: 100px; width: 100%;"></div>

	
<p>○ 全体で考えを共有する場を設定し、主教材と副教材が関連しているという考えの理由を問う。 【働き掛け2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問「グループで話し合って、どんな考えが出ましたか」 ・指示「話し合ったことを発表しましょう」 <p>※ 黒板を後方に下げて黒板前にスペースを作り、そこに子供たちを集めて考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問「なぜ、○○と□□がつながっていると考えたのですか」 	<p>○ 他者の考えとその理由とを聞いて、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> 
<p>○ 学習課題に対する最終的な自分の考えとその理由とを問う。 【働き掛け3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問「宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えたかったのは、何なのでしょう。また、そう考えたのはなぜですか」 ・指示「あなたが賢治から受け取ったメッセージと、その理由を書きましょう」 <p>※ ロイロノートのテキストに自分の考えと振り返りを記入させる。</p> <p>※ 数人の考えを全体で共有する。</p>	<p>○ 授業を通して考えたことを基に、学習課題に対する最終的な考えを表現する。</p> 

(3) 評価

教材文「やまなし」と複数の副教材を関連付けながら読み、宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いを考えることができたかを、スタディ・ログや振り返りの記述から評価する。